

第5回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第5回環境保全協議会では、今年度の環境調査結果、前回お示しした環境影響評価の予測手法に基づいた動植物の予測対象種の選定結果等について、詳細を説明しご意見をいただきました。

具体的には「第4回協議会における指導事項と対応について」「今年度の環境調査状況について」「環境影響予測の考え方について」「アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について」「今後の調査・評価方法について」を説明し、各委員から活発な意見をいただきました。

記

1 日 時 平成22年 3月19日（金） 13：30 ～ 15：35

2 場 所 最上総合支庁5階講堂

3 出席者 11名（12名中1名欠席）

原委員（委員長代理）、伊藤委員、今井委員、梅田委員、大場委員、萱場委員
岸委員、小林委員、柴田委員、横倉委員、渡辺委員（欠席者：中島委員長）

4 各委員からの主なご意見

- ・ 今井委員：【猛禽類調査結果について】
 - ・クマタカAペアの営巣場所は毎回変わっており、営巣場所により保全対策の必要性、その方法を検討する必要がある。
 - ・クマタカC個体は、繁殖に向けた行動を行っており、ペアの可能性が高い。繁殖にあたって、ダム事業による影響はないと考えられるが、行動圏には軽微な影響が及ぶことも考えられる。
 - ・オオタカについては、営巣場所はダムから離れた場所であり、工事による影響は考えられない。
 - ・ハイタカは数年たつと営巣地を変えることが多いため、春以降の指標行動で営巣地を確認する必要がある。〔事務局：今後もモニタリング調査を継続する。〕
- ・ 原 委員：【付着藻類調査結果について】
 - ・珪藻と藍藻の存在形態や適温などの一般的生態の違いに留意して検討・考察する必要がある。今後の検討に有意な基本データになるものであり、データの継続性を尊重して、今後も調査を継続してほしい。〔事務局：一般的生態に留意して、検討・調査を継続する。〕
- ・ 横倉委員：【影響予測の考え方について】
 - ・ヒメギフチョウは、ダム周辺に生息環境があるので、調査を継続して欲しい。
 - ・マグソクワガタについては、湛水域外に生息している個体数が重要である。また、卵は数十～百個単位で産むため、回復力は強く、試験湛水後に回復する可能性は高い。
 - ・ワタナベカレハについては、情報不足種であり、その分布・生態には不明な点が多い。近年、最上地区で多数の生息が確認されている。〔事務局：意見を参考に調査していきたい。〕
- ・ 全 委員：【影響予測の考え方について】
 - ・環境影響予測の手法・予測結果については適切と考える。
- ・ 梅田委員：【アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について】
 - ・濁水シミュレーションの前提条件の与え方、考え方などを次回協議会で丁寧に説明してほしい。
- ・ 萱場委員：【アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について】
 - ・ダムサイト直上流の砂防ダムよりも水位が高い場合、低い場合について、その影響がどのように及ぶかを次回協議会で丁寧に説明してほしい。

